

地域防災支援（八百津町防災訓練に参加）

本格的な梅雨の到来を前に、5月15日(日)八百津町防災訓練に、新丸山ダム工事事務所も参加しました。

今回の訓練は、昨年7月15日八百津町と可児市を襲った記録的集中豪雨による土砂崩れで3名が亡くなられた災害を教訓に、地域住民の防災意識向上を目的に行われました。

新丸山ダム工事事務所は災害発生時に地域の方々への支援を迅速に行うため、八百津町災害対策本部に被害情報や支援ニーズを把握するための「連絡要員(リエゾン)」と、土砂災害が発生したことを想定して「災害対策本部車及び照明車」の派遣訓練を行いました。その他、八百津町住民の皆さんの避難訓練や、岐阜県可茂土木事務所長他による防災講演会なども行われました。

災害対策車両の展示コーナーでは、避難訓練に参加された地域の方々など約800名(訓練参加者約760名:八百津町防災安全室)が、災害対策本部車の拡張された広い室内を見学されたり、昨年の八百津町災害時に照明車やポンプ車を派遣し応急対策を行った写真や、東日本大震災へ展示車両が派遣された写真を見られたり、「照明車は何時間照らすことができるのか(1回の燃料補給で24時間)」などたくさんのご質問やご意見も頂き、防災への関心の高さを感じました。

また、訓練に併せて行われた防災講演会場に新丸山ダム建設事業を紹介する「パネル展示」を行いました。



八百津町災害対策本部へ
連絡要員の派遣



災害対策車両を
見学する訓練参加者

平成23年度 丸山ダム周辺現地調査



国道418号



五月橋(右岸上流側から)

5月25日(水)に恵那市飯地町にある笠置ダムから加茂郡八百津町南戸地内までの約16kmの「丸山ダム周辺現地調査」を新丸山ダム工事事務所と丸山ダム管理所の合同(参加者9名)で実施致しました。これは丸山ダム貯水池内及びその周辺の現状を把握するため、徒歩で調査するものです。

ダム湖岸道路の一般国道418号は幅員が狭小で急峻な地形で、断崖、また未舗装の箇所や土砂崩壊している箇所、藪など所々にあるため慎重に歩行しました。近年運動不足で著しく低下してしまった脚力には険しい道程でした。

しかしながら、目に映る景色は美しく、足の痛みを忘れさせてくれました。

特に物静かな浅緑の湖面とダム湖に架かるスレンダーな構造の吊橋(五月橋)は調和がとれて、とても美しい景観でした。

現地調査を徒歩で行ったことで、ダム湖周辺の変状や水の状態等をより細かく確認できました。